

地域を取り巻く現状

- ・今後の開発が予想される地域であること等から、様々な地域の相互連携により自立・持続的な地域社会の形成が可能な地域
- ・近鉄大福駅、中和幹線という交通要所に至近で、店舗等の出店も想定されることから、暮らしの機能の確保が容易な地域
- ・老朽化した公営住宅(県営・市営)を抱えており、公有地を活用した拠点づくりの可能性が期待できる地域

地域マネジメントの必要性についての意識共有

- ・人口・世帯減少の拡大、住民ニーズの多様化等を踏まえると、地域に関わる様々な意思決定や取り組みを住民自身が自ら行おうとする“地域マネジメント”意識の醸成は不可欠
- ・住民の高齢化・単身化の増大に対応した自助共助公助の取り組みを推進するためには、地域住民・行政協働による“地域マネジメント”は不可欠
- ・様々な地域の価値の最大化を図るため、地域に不足する価値(機能)を他地域とのネットワーク構築により補完するためには、各地域間を連携させる“地域マネジメント”は不可欠

【12月以降の取り組み】

■ まちづくり協議会の設置(12月25日)及び第1回の開催(1月21日)

- ・包括協定締結(12/22)を踏まえ「桜井市大福地域まちづくり協議会」を設置
- ・第1回協議会は、県と市により開催

<主な協議事項>

- ・まちづくり区域の確認(別紙参照)
(北:中和幹線 南:近鉄大阪線 西:市境界線 東:県道田原本王寺線)
- ・まちづくり基本構想(案)の確認(別紙参照)
- ・大福地域まちづくり基本協定の検討(別紙参照)

■ 自治連合会長説明(1月27日)及び各自治会長合同説明会(2月8日)

- ・自治連合会長への説明を踏まえ、(連合会長からの声かけにより)各自治会長と意見交換を実施

<主な意見>

- ・まちづくりの推進には治水対策が必須
周辺地域の民間開発により、地域内を通過する寺川や用水路が氾濫。主に東新堂地区、西部団地地区において浸水被害が近年増加
- ・高齢者が安全、安心して歩ける歩道の整備
同じく幹線道路沿いの開発に伴い、旧集落内の道路が抜け道として利用され、地域住民(特に高齢者)が通行するにあたり非常に危険
- ・小規模な乱開発による地域のスプロール化
地域内の開発が小規模開発団地ばかりで、将来を考えると地域の価値が下がり、地域の持続性が危惧

統計データ等の分析だけでは分からない**地域の現状や課題**についてまちづくり協議会等を通じて、県・市・地元で**意識共有**できる可能性

【今後の取り組み】

県によるリーディングプロジェクト

奈良県による取り組み

【拠点整備基本計画に基づく取り組み】

- 県営住宅の建て替え
- 歩道空間等整備(周辺と連続する外部空間の整備)
- 事業展開用地の活用

桜井市による取り組み

【まちづくり総合計画に基づく取り組み】

■市営住宅活用計画に基づく取り組み

- 老朽化市営住宅の改修など

■地域交通の整備

- 地域外との地域公共交通の整備
- 地域内移動のための交通整備

■地域住民との協働

■地域との協働に向けた取り組みの進め方

Step 1 地域特性の再確認

- ① 地域の特徴: 人材・まちなみ・歴史資産など
- ② 確認手法: 協議会、まち歩きなど

Step 2 地域の本質が抱える課題の共有 →マネジメント意識の醸成

- ① 課題の共有: 定期的なまちづくり協議会の開催
- ② マネジメント意識の醸成:
まちづくり成功事例の積み重ね

進化する地域づくりの取り組み

住民の暮らし満足度向上

地域に長く住み続けることが出来るまちづくり

さらに次世代に繋ぐまちづくり

地域の適正なマネジメントへ